



## 「みどりの学校ファーム」の取組



### 幸手市立八代小学校の取組について

#### <実践の概要>

- 学校ファームを活用した体験活動のねらいを、「教科等の目標を達成することを目指す中で位置付ける。」と明確にしている。さらに、教科等の教育活動にも位置付けている。
- 計画や運営については、学校が主体となり、学校運営協議会と学校応援団推進会議の両輪で活動を推進している。
- 地域の方々のサポートを得て、トマト、サツマイモ、玉ねぎや米の栽培に取り組んでいる。また、収穫したものを調理したり、外部講師との連携による出前講座を行ったりすることで、食育にも取り組んでいる。
- 年間計画に、1年生の親子給食、給食試食会を位置付け、保護者向けの活動も行っている。その中では、朝食の大切さについて、学校栄養士から話をする機会を設けている。
- 八代小学校で行われている社会に開かれた学校での学びは、地域総掛かりで子供の成長を応援し、そこから生まれる絆が地域活性の基盤となっている。

#### <アンケートから>

- 八代小の発表は、地域の代表として区長さんが説明をされ、まさに地域とともにある学校を実現させていることがうかがえた。
- 学校ファームの活動を年間指導計画の中にどのように位置づけていくか分かった。また、年間を通じ、計画的に野菜を育てていることは、子ども達に食育の視点で大変有意義であると感じました。参考にさせていただきます。
- 地植えができる広さ、協力者（ボランティア）の多さが、重要だと思いました。冬野菜の種まきも参考になりました。農地の有効活用の視点が素晴らしいです。

#### 【指導講評】 春日部農林振興センター地域支援担当

##### <みどりの学校ファームの推進について>

- みどりの学校ファームは、子どもたちが農業体験を通じて、植物の生育過程を観察することにより、命や自然、環境や食物、農業に対する理解を深め、様々な気づきを得てもらうことを目的に推進している。県では、JAグループさいたまの協力を得ながら、学校ファームの活動にかかる資材の配布等に対する支援を行っている。平成20年から設置を推進した事業であるが、県内小・中学校における設置率は、平成25年度末までに、100%となっており、今後は、地域ぐるみで学校ファームに取り組む体制整備を推進している。

##### <取組について>

- 生活科や総合的な学習の時間、特別活動など、様々な教科等の授業に、学校ファームにおける体験活動を位置づけて取り組んでいる。これらの取組み全体を通して、自分たちで育てたり、収穫した農作物を調理したりすることで、より農業の大切さや農作物への理解が深まっている。また、自然や命の大切さを学ぶことで、学校ファームの効果をさらに高める効果があった。
- 学校応援団など地域の人たちとの連携や中学生との交流、農家の方々に協力を得ながら取り組むことにより、子どもたちに家族や地域との絆が十分に理解されるとともに、社会力や豊かな人間性が育まれる。また、地域の活性化にもつながる素晴らしい取組であった。